

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	池田 雅明
主な担当科目	J&C作編曲法研究,コンテンポラリー・ミュージック・スタディ特別演習①,ジャズ &コンテンポラリー・アンサンブル特別演習Ⅱ①,ジャズアンサンブルⅠ③,ジャズアンサンブルⅡ②,ジャズアンサンブルⅡ④,ジャズの歴史と作品,ジャズビッグバンド①,ライブ実習Ⅰ①,ライブ実習Ⅱ①,海外研修(ニューヨーク見学),卒業ライブ,副科グループレッスン,インストⅠ
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	国内でも数少ないジャズ・ポピュラーコースを有する大学として知名度、教育レベルを上げるべく、海外のジャズ系大学及び機関との連携を深め、ワークショップの開催や相互留学の可能性を模索する。また中国系音楽塾との継続連携、永年継続中のオーストラリア(WAYJO)との日豪ジャズ文化交流を成功させる。メディア授業化された「ジャズの歴史と作品」の内容を精査し、新情報と共にUpdateする。開講3年目となるJ&C大学院の更なる授業内容拡充を目指し、特に作編曲法と論文指導にも力を入れる。顧問を務めるLily Jazz Orchestraのビッグバンドコンテスト用指導にも尽力し更なる学外宣伝に繋げる。
2025年の教育に関する自己評価	本年度は海外のジャズ系機関との連携を盛んに行い、デトロイトジャズを筆頭に、テキサス州立大学、ハワイマウイ高校、Queensland Jazz Orchestra(豪)との合同ワークショップ等を開催し、学生には世界標準レベルを提示することが出来た。更に日豪両サイドに於いて「SHOWAYJO Big Band」の成果を発表、成功させた。中国系音楽塾との連携で上海音楽大学にて特別講座を行なった。「ジャズの歴史と作品」のメディア授業化が好評を呼び履修者数が250名を超えた為、レポート評価は困難を極め、来年度は履修制限を設ける必要がある。J&C大学院の特別集中講義はセメスター制と共にオムニバス授業回を増やし、学内の多彩な講師陣の登壇により様々な内容を盛り込むことが出来た。顧問を務めるLily Jazz Orchestraは山野ビッグバンドコンテストにて昨年に引き続き、第2位を獲得することが出来た。
2025年のFD活動に関する自己評価	全てのFD研修会に出席し、本学に於ける今後の運営方針、特にセメスター制に移行した事による授業対応、様々な学生への対応法を含め、再考する良い機会となった。特に4月の大学院FD分科会ではJ&C大学院の現状をお伝えするべくパネリストとして登壇し、他コースとの情報共有に努めた。更に部会における各楽器ごとのパート別FDでは各講師からの貴重な意見を取りまとめ、より良きコース運営、また授業展開に繋げることが出来た。
授業改善のために取り入れた研修内容	学生とのプライバシーの観点からLINE等による連絡を極力控え、Teamsを活用した。多数の留学生を含む多様な学生への対応について、更に個々へ向き合うための様々な方法を考え、実践した。パート別FDにて各楽器ごとの講師より寄せられた意見をもとに、特にレッスン室の設備やレイアウトについて改善、また授業内容の再考を行った。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2327 教員名:池田 雅明

1)アンケート結果に対する所見

本アンケート結果から、各授業の評価は全体として一定の水準を保っているものの、科目ごとに評価のばらつきが見られ、授業内容や進め方、教員の指導スタイルの違いが学生満足度に影響していると考えられる。特に「授業の分かりやすさ」や「到達目標の達成度」に関する項目は概ね高評価であり、教育効果は総じて良好と言える。

一方で、授業外学修時間や授業への関心・主体的な取り組みについては科目間で差が見られ、学習意欲の喚起や継続的な関与を促す工夫には改善の余地があると考えられる。

現時点で顕著な問題点は確認されないが、今後は評価の高い授業の実践事例を共有し、授業設計や教材の工夫、フィードバック方法の改善を通じて、全体的な質の底上げと均質化を図ることが重要である。

2)要望への対応・改善方策

全体的に、講義系科目および大学院授業については概ね高い評価を得ることができた。一方、今回のアンケートでは、ジャズ系実技授業について改善を求める意見が比較的多く見られた。コンボ授業では、複数講師による指導について、様々な視点から学べることが評価された一方、講師による指導方法や方針のばらつきを指摘する意見もあった為、今後は、各講師間で指導方針や到達目標を共有し、授業の一貫性を高めていきたい。また、ビッグバンド授業において、現況の学年別によるクラス編成では学生の演奏レベルに差が生じており、楽曲選定や授業の完成度に影響するとの意見があった。今後はレベル分けテスト等の導入を検討し、学年にとらわれず、学生の技術レベルに応じたクラス編成を行うことで、より効果的な授業運営を目指したい。

3)今後の課題

近年、ジャズコース、ポップ&ロックミュージックコースともに、入学時点での学生のレベルにばらつきが見られる。特にアンサンブル授業においては、学年別にクラス分けを行うのみではレベルの均一化が難しい状況が生じつつあり、プレイメントテストの導入等を含め、更に最適な運用方法を検討していきたい。また、現在4クラス制で運用しているジャズコンボ授業については、履修者数の増加に伴い、クラスをさらに分割する必要性が生じている。しかしながら、アンサンブル用教室の不足が課題となっているため、教室確保について大学側と交渉・検討を進めていきたい。

以 上